

秋子生産と植菌準備

1 はじめに

秋子は、10月頃から降雪前発生しますので、生長を促進させるためには保温がポイントとなります。また、この時期は、これから春にかけて植菌を行うための原木の伐採・購入や種菌等の準備を行う時でもあります。植菌計画を立て、原木や種菌の準備を行います。

森林組合などから原木を購入する場合などは、原木林を探してから伐採作業に入るため、届くまでに時間がかかるので、早めに注文することが必要です。

2 秋子の生産

(1) 生長促進

これから降雪時まで、右下図のように次第に気温が下がり、しいたけが生長を休止する5℃以下の日が増えてきます。芽切ったしいたけは、被覆資材で保温し、大きくします。ホダ木全体を資材で覆ったり、しいたけの芽に1個ずつ袋掛けを行うなどして保温します。

(2) 採取・乾燥

今年は、乾燥機に使用する灯油代が高騰しているため、乾燥作業を効率的に行うことがポイントになります。

秋から降雪前までの雨の多い時期に発生する秋子は、水分が多くなっていますが、被覆資材を使用した場合は、しいたけの水分がさらに多くなっています。

採取できる大きさになったしいたけは、採取する数日前に被覆資材を除去するとともに、防風ネットのすそ上げを行ってホダ場内の通風を良くし、きのこの水分を減らしてから採取します。

また、しいたけをスライスして生産する場合、乾燥時間は約5時間と通常の場合の約18時間より大幅に短いため、燃料代が大幅に節約できます。

3 植菌準備

(1) 原木

伐採した原木は、木口面にヒビがはいった頃に玉切りします。

玉切りした原木や購入した原木を春の植菌時まで保管する場合は、乾きやすい

細い原木を下にし、約1mの高さに積み上げ、枝条や被覆資材で覆います。

(2) 種菌等

種菌は種菌メーカーの営業所や出張所、森林組合、農協等で取り扱っています。しかし、受注数量が多くなると、手元に届くまで時間がかかることがありますので、早めに手配しておきましょう。価格にはメーカー本社からの送料も上乘せになることがあるので、注文先に確認してください。なお、ドリルの錐は種菌メーカーによって異なりますので、種菌の注文時には併せてドリルの錐も注文します。

4 ホダ場や資材等の手入れ

露地や人工ホダ場などでの秋子生産が終了した後に、ホダ場や資材等の手入れを行います。

(1) ホダ場

散水施設では、散水管内の水を抜きます。ホダ場は、降雨がホダ木に届きやすいように、間伐や枝打ちを行い整備します。

廃ホダや樹皮が剥げたり傷んだりしているホダ木は、害菌等が附着しやすいため、ホダ場外へ搬出します。

人工ホダ場では、散水施設の整備に加えて雨除け資材を巻き上げて縛り、降雪等による被害を防止します。

(2) 資材等の手入れ

使用しない被覆資材は整理して保管します。乾燥機はバーナー等の清掃を行うとともに、屋根から落雪のある場所では、煙突をはずします。

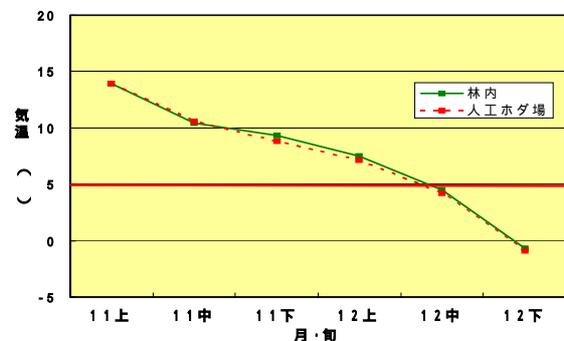


図 平成16年11～12月旬毎の15時の平均気温

(担当 林産利用部 上席専門研究員 小原孝文)

連絡先

028-3623 岩手県紫波郡矢巾町大字煙山第3地割560番地11

岩手県林業技術センター

ホームページアドレス <http://www.pref.iwate.jp/~hp1017/>

T E L 019-698-1337

F A X 019-697-1410